

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第7部門第3区分  
 【発行日】平成24年9月13日(2012.9.13)

【公開番号】特開2011-41098(P2011-41098A)  
 【公開日】平成23年2月24日(2011.2.24)  
 【年通号数】公開・登録公報2011-008  
 【出願番号】特願2009-187946(P2009-187946)  
 【国際特許分類】

H 0 4 J 3/00 (2006.01)

H 0 4 N 7/173 (2011.01)

【F I】

H 0 4 J 3/00 M

H 0 4 N 7/173 6 3 0

【手続補正書】

【提出日】平成24年7月25日(2012.7.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0090

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0090】

なお、式(1)において、N\_bitsは、1パケット当たりのビット数であり、例えば、1504(bit/packet)が代入される。また、Tは、エレメンタリーピリオド(Elementary Period)の単位であって、例えば、8MHz帯域であれば7/64 $\mu$ sといった値が代入される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0097

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0097】

$$RTS = N\_bits / Pts \times T = 1504 [ \text{bit/packet} ] / 500 [ T/\text{packet} ] \times ( 7/64 [ \underline{\mu} s ] ) = 27.5 [ \text{Mbps} ]$$

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0135

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0135】

なお、式(2)において、FEF\_Lengthの単位はT[ $\underline{\mu}$ s]、FEF\_Intervalは、n番目のFEFとn+1番目のFEFとの間に配置されるT2フレームの数とする。そして、先述した通り、これらのFEF\_Length, FEF\_Intervalは、遅延時間演算情報として、復調部21から供給されるものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0137

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0137】

例えば、図 1 3 の例では、Frame\_index=2, FEF\_Interval=3となるので、FEF\_Length=300  $\mu$ sである場合には、それらの値を、式(2)に代入することにより、遅延時間として、 $D = 2/3 \times 300 = 200 \mu$ sが求められる。すなわち、読み出し制御部 3 4 は、書き込みが開始してから、200  $\mu$ sを経過した後に、読み出しを開始すればよい。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 8】

すなわち、図 1 3 c に示すように、読み出し制御部 3 4 は、バッファ 3 1 に蓄積される Common PLPとData PLPの読み出しを制御して、読み出しタイミングが同期したCommon PLPとData PLPとの組み合わせが検出された後、例えば、式(2)から得られた200  $\mu$ sを経過してから読み出しを開始して、TSを復元して出力する。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 4 4】

なお、式(3)において、T2\_frame\_Lengthは、T2フレームの長さである(単位はT[ $\mu$ s])。また、N\_TIは、1個のT2フレーム内のTime Interleaveの数であって、N\_TIの値に応じて、T2フレームの処理の単位が分割される。